

# 調査研究報告書

## 中学生の医薬品使用実態に関する調査研究 —医薬品教育プログラムの展開に向けて—

研究代表者 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

博士課程後期課程1年 堺 千紘

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 川畑研究室

Tel : 078-803-7739

### I. 目的

近年、我が国では、急速な高齢化の進行や生活習慣病の増加などによる疾病構造の変化、及びQOLの向上への要請に伴い、自分自身の健康に対する関心が高い国民が多くなってきており、国民の健康に対するニーズも多様化してきている<sup>1)</sup>。このような中で、身近にある一般用医薬品を活用しながら、「自分自身の健康に責任をもち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」<sup>2)</sup>である「セルフメディケーション」が注目されつつある。

また、薬事法改正による一般用医薬品の販売制度の変更により、利用者の判断で医薬品を使用する機会が今後高まると考えられている。

このような背景のもと、利用者が医薬品に関して正しい知識をもち、適切に使用できるようになることが求められていると同時に、利用者が適切に医薬品を使用できるよう教育的支援を行っていくことの重要性が認識されつつある。

とりわけ、青少年を対象とした啓発が重要視されている。学校教育においても、生涯を通じて医薬品を適切に使用できるようになることを目的として、中学校と高等学校の新学習指導要領保健体育科において、医薬品に関する学習内容の充実が図られた<sup>3,4)</sup>。

教育によって青少年の適切な医薬品使用を促すためには、我が国の青少年の医薬品使用実態に適し、学習目標をより効果的に達成しうる教育プログラムを開発する必要がある。そして、そのような教育プログラムを開発するためには、第一段階として、1) 青少年の医薬品使用実態とその問題点を明らかにすること、2) 青少年の医薬品使用行動と関連のある要因や教育で働きかけるべき要因を明らかにすること、が不可欠である。

しかし、我が国においては、健康な青少年の医薬品使用実態に関する調査研究は少なく、青少年がどのように医薬品を使用しているのか、あるいは、青少年の医薬品使用実態にどのような問題があるのか、ということは、あまり明らかにされていない。さらに、

青少年の医薬品使用行動にはどのような要因が関連しているのか、ということについても、研究は少ない。

そこで本研究では、平成 24 年度より義務教育において初めて医薬品に関して学習する中学校 3 年生に焦点を当てたパイロット調査により、1) 中学生の医薬品使用に関わる行動や態度の実態、2) 中学生の医薬品使用行動の関連要因、について予備的に検討し、中・高校生を対象とした大規模調査に向けて基礎情報を得ることを主な目的とした。

なお、本報告書においては、本調査研究で得られた結果の内、医薬品使用実態に関する結果の一部を抜粋して紹介する。

## II. 方法

### 1. 対象

福岡県北九州市の公立中学校 1 校に在籍する 3 年生の内、3 クラスを調査対象とした。在籍者数は 117 名で、当日欠席者 6 名を除いた 111 名が調査に参加し、有効回答率は 100%であった。男女の内訳は、男子 59 名、女子 52 名であった。

### 2. データ収集

2010 年 8 月下旬に調査票を調査対象校に郵送し、2010 年 9 月上旬に調査を実施した。調査は、原則として調査対象クラスの学級担任に依頼した。調査実施方法の統一を図るために調査実施者用手引書を作成し、生徒への説明や指示を具体的に記して、指示内容以外の説明を行わないように求めた。

また、できるだけ正確な回答を得るために、回答した内容についての秘密の保持に配慮した。第一に、調査は自記入式の無記名調査とした。第二に、記入後はあらかじめ各人に配付した封筒に記入済みの調査票を入れ、封をさせた。第三に、調査中は机間巡視をしないように調査実施担当教師に求めた。

倫理的配慮として、生徒自身の健康状態や、慢性疾患等でのむことが決められている医薬品の服薬状況に関する質問は含めないこととした。

### 3. 調査項目

表 1 には、主な調査項目（抜粋）を示した。

現行中学校学習指導要領では医薬品に関する学習が行われていない。そこで、本研究では、現在の中学生は一般用医薬品と医療用医薬品の区別や、医薬品とサプリメント等健康食品の区別が困難であると考え、一般用医薬品と医療用医薬品の区別はせず、栄養補給を目的とする医薬品は調査対象には含めないこととした。さらに、回答の混乱を避けるため、医薬品の中でも内服薬（のみ薬）に限定した。これらのことを踏まえ、本研究では、医薬品を「以下の質問の「医薬品」とは、どこか痛い、熱があるなど、からだ

の具合が悪いときにのむ医薬品のことです。ぜんそくやアトピーなどの医薬品で、ふだんのむことが決められている医薬品はふくみません。」と定義し、調査票に記した。

### 1) 医薬品使用行動

医薬品使用経験に関して、過去1年間および過去1か月間に、どのような症状のときに服薬したかをたずね、当てはまるもの全てを選択してもらった(1. かぜ(せき, 鼻水, 熱), 2. 頭痛, 3. 乗り物酔い, 4. 生理痛, 5. 腹痛・お腹の具合が悪い(げり・便秘など), 6. その他, 7. 医薬品はのんでいない)。なお, 先行研究では医薬品の種類別(鎮痛薬, 整腸薬等)に使用経験をたずねているものが多かったが, 中学生では医薬品の種類に関する認識が不十分な者もいると考え, 本研究では症状別に質問することとした。

自己判断での服薬経験に関して, 保護者(親など)や学校の先生(担任, 保健室の先生など)に相談せず, 自分で服薬した経験, 医薬品を購入した経験, 友人から医薬品をもらった経験, 友人に医薬品をあげた経験の有無について質問し, 2件法(1. ある, 2. ない)で回答を求めた。

医薬品を使用する際の注意事項に関しては, 学習指導要領<sup>3,4)</sup>や保健体育科の教科書等<sup>5-8)</sup>を参考に, ①注意書き(説明書)を読む, ②服用時間を守る, ③服用量を守る, の3項目を選定した。そして, 各注意事項を実際にどの程度守っているか(行動), またそれらを守ることにについてどう思うか(態度)をたずねた。「行動」については, 5件法(1. 守っている(または1. いつも読んでいる), 2. 守っていないときもある(または2. 読まないときもある), 3. ほとんど守っていない(またはほとんど読まない) 4. よくわからない, 5 医薬品はのまない)で, 「態度」については, 3件法(1. 大切だと思う, 2. あまり大切だと思わない, 3よくわからない)で回答を求めた。

### 2) 健康問題に関する相談相手

医薬品を使用するときの相談相手に関して, 「あなたは, 医薬品をのむとき, 誰に相談することが多いですか」という質問に対して, (1. 保護者, 2. きょうだい, 3. 友人, 4. 専門家(医師, 歯科医師, 薬剤師など), 5. 学校の先生(担任, 保健室の先生など), 6. その他)の中から当てはまるもの全てを選択してもらった。

医薬品をのむとき, あるいはからだの具合が悪いときに, 保護者やきょうだい, 友人に相談する頻度に関して, それぞれ, (1. いつも相談する, 2. ときどき相談する, 3. あまり相談しない, 4. 全く相談しない)の中から一つを選択してもらった。

### 3) 医薬品に関して信頼できる情報源

信頼できると思う医薬品に関する情報源について, (1. テレビの番組, 2. テレビの広告, 3. インターネット, 4. 雑誌の記事, 5. 雑誌の広告, 6. 保護者(親など), 7. きょうだい, 8. 友人, 9. 専門家(医師, 歯科医師, 薬剤師など), 10. 学校の先生(担任, 保健室の先生など), 11. その他)の中から当てはまるもの全てを選択してもらった。

また、「その他」の選択肢を選んだ場合については、その具体的な内容を記入してもらった。

#### 4. 分析方法

性差の有意性の検定には $\chi^2$ 検定を用いた。医薬品の注意事項を守ることに關する態度別にみた、注意事項を守る行動の差の検定には $\chi^2$ 検定を用いた。

なお、欧米の多くの先行研究において、医薬品使用行動には性差が認められていたため、分析は全て男女別に行った。

解析に際しては、統計プログラムパッケージ SPSS14.0J for Windows を使用し、統計上の有意水準は5%とした。

### Ⅲ. 結果

ここでは、本調査研究で得られた結果の一部を紹介する。

#### 1. 医薬品使用行動に関する実態

図1には過去1年間および過去1か月間の服薬経験者の割合を示した。

過去1年間の服薬経験についてみると、男子93.2%、女子94.2%が何らかの症状で医薬品を服用したと回答した。

症状別にみると、男女共に「かぜ」(男子72.9%、女子76.9%)、「腹痛・お腹の具合が悪い」(男子49.2%、女子40.4%)、「頭痛」(男子44.1%、女子38.5%)が多かった。

また、性差に関しては、「乗り物酔い」( $\chi^2=5.228$ ,  $df=1$ ,  $p=.022$ )と「その他」( $\chi^2=6.475$ ,  $df=1$ ,  $p=.011$ )に有意差が認められ、いずれも女子の割合が男子より高かった。なお、「その他」において女子に最も多かった回答は「鉄剤(貧血予防)」(4人)であった。

過去1か月間の服薬経験についてみると、男子46.6%、女子48.1%が何らかの症状で医薬品を服用したと回答した。

症状別にみると、男女共に「腹痛・お腹の具合が悪い」(男子26.3%、女子25.0%)、「かぜ」(男子19.3%、女子23.1%)が多かった。また、女子においては、「生理痛」(21.2%)で服薬した者が比較的多かった。

なお、過去1か月間の服薬経験については、性差は認められなかった。

図2には、自己判断での服薬や医薬品購入の経験、友人と医薬品をシェアした経験のある者の割合を示した。

保護者や学校の先生に相談しないで、自分で医薬品をのんだ経験に関する質問については、男子35.6%、女子42.3%が「ある」と回答した。

保護者や学校の先生に相談しないで、自分で医薬品を買った経験については、男子5.1%、女子5.8%が「ある」と回答した。

また、友人と医薬品をシェアした経験については、友人から医薬品をもらった経験の

ある者は男子 13.8%, 女子 26.9%, 友人に医薬品をあげた経験のある者は男子 11.9%, 女子 19.2%であった。

これらの項目については、いずれにおいても性差に関する統計的有意差は認められなかった。

図 3 には医薬品を使用する際の注意事項についての行動に関する結果を示した。

説明書を読むことに関して、「いつも読んでいる」と回答した者の割合は、男子 33.9%, 女子 19.2%, 「読まないときもある」は男子 28.8%, 女子 38.5%, 「ほとんど読まない」は男子 23.7%, 女子 26.9%であり、これら 3つの選択肢を選んでいる者の割合は同程度であった。

医薬品をのむときに決められた時間を守ることにに関して、「守っている」と回答した者の割合は、男子 44.1%, 女子 44.2%, 「守っていないときもある」は男子 37.3%, 女子 36.5%であり、これら 2つの選択肢を選んでいる者が多かった。また、「ほとんど守っていない」と回答した者は、男子 8.5%, 女子 7.7%だった。

医薬品をのむときに決められた量を守ることにに関して、「守っている」と回答した者の割合は男子 89.8%, 女子 82.7%と高かった。一方、「守っていないときもある」と回答した者は男子 5.1%, 女子 1.9%, 「ほとんど守っていない」は男子 0.0%, 女子 3.8%と少なかった。

また、説明書を読むこと、のむ時間を守ること、のむ量を守ることのいずれにおいても、有意な性差は認められなかった。

図 4 には医薬品を使用する際の注意事項に関する態度についての結果を示した。

医薬品をのむ前に説明書を読むことについて、「大切だと思う」と回答した者の割合は男子 83.1%, 女子 75.0%, 「あまり大切だと思わない」は男子 8.5%, 女子 9.6%, 「よくわからない」は男子 8.5%, 女子 15.4%であった。

医薬品をのむときに決められた時間を守ることにについて、「大切だと思う」と回答した者の割合は男子 81.4%, 女子 84.6%, 「あまり大切だと思わない」は男子 11.9%, 女子 9.6%, 「よくわからない」は男子 6.8%, 女子 5.8%であった。

医薬品をのむときに決められた量を守ることにについて、「大切だと思う」と回答した者の割合は男子 96.6%, 女子 86.5%, 「あまり大切だと思わない」は男子 3.4%, 女子 7.7%, 「よくわからない」は男子 0.0%, 女子 5.8%であった。

また、説明書を読むこと、のむ時間を守ること、のむ量を守ることのいずれにおいても、有意な性差は認められなかった。

図 5 には、医薬品をのむときの相談相手に関する結果を示した。

医薬品をのむときの相談相手として、男女共に回答者が最も多かった選択肢は「保護者」だった（男子 89.8%, 女子 96.2%）。次に回答者が多かったのは「専門家」（男子 31.0%, 女子 25.0%）だった。一方、「きょうだい」（男子 1.7%, 女子 9.6%）, 「友人」（男子 1.7%, 女子 9.6%）, 「学校の先生」（男子 0.0%, 女子 1.9%）を選択した者は少

なかった。

性差については、いずれの項目についても統計的有意差は認められなかった。

表2には、医薬品をのむとき及びからだの具合が悪いときの、保護者、きょうだい、友人への相談頻度に関する結果を示した。

医薬品をのむとき及びからだの具合が悪いときのいずれにおいても、保護者への相談頻度に関しては、男女ともに「いつも相談する」と回答した者が最も多く（医薬品をのむとき；男子 57.6%，女子 67.3%，からだの具合が悪いとき；男子 50.8%，女子 63.5%），次いで「ときどき相談する」と回答した者が多かった（医薬品をのむとき；男子 32.2%，女子 21.2%，からだの具合が悪いとき；男子 33.9%，女子 21.2%）。最も回答者が少なかったのは「全く相談しない」（医薬品をのむとき；男子 0.0%，女子 1.9%，からだの具合が悪いとき；男子 1.7%，女子 1.9%）だった。

きょうだいへの相談頻度に関しては、男女共に「全く相談しない」（医薬品をのむとき；男子 61.0%，女子 68.0%，からだの具合が悪いとき；男子 54.2%，女子 52.0%）と回答した者が最も多かった。最も回答者が少なかったのは「いつも相談する」（医薬品をのむとき；男子 1.7%，女子 2.0%，からだの具合が悪いとき；男子 5.1%，女子 8.0%）だった。

友人への相談頻度に関しては、最も回答者が多かった選択肢は、医薬品をのむときに関しては「全く相談しない」（男子 71.2%，67.3%），からだの具合が悪いときに関しては「あまり相談しない」（男子 35.6%，女子 30.8%）だった。最も回答者が少なかった選択肢は、「いつも相談する」（医薬品をのむとき；男子 0.0%，女子 1.9%，からだの具合が悪いとき；男子 3.4%，女子 15.4%）だった。

性差については、いずれの項目においても統計的有意差は認められなかった。

図6には、医薬品に関して信頼できる情報源についての結果を示した。

医薬品に関して信頼できる情報源については、男女いずれにおいても「専門家」（男子 83.1%，女子 82.7%）や「保護者」（男女共に 71.2%）を選択した者が多かった。男子では、次いで「テレビの番組」（30.5%），「学校の先生」（23.7%），「インターネット」（20.3%）が多く、女子では、次いで「友人」（19.2%），「インターネット」（17.3%），「テレビの番組」（15.4%），「学校の先生」（15.4%）の順に多かった。

## 2. 医薬品使用行動と、その関連要因との関係

図7には、医薬品の使い方に関する行動と態度の関係について、 $\chi^2$ 検定を行った結果を示した。

説明書を読むことについては、男子では群間に有意差が認められ（ $\chi^2=22.645$ ， $df=8$ ， $p=.004$ ），「大切だと思う」群においては「いつも読んでいる」と回答した者の割合が最も高かった。一方、「あまり大切だと思わない」群と「よくわからない」群においては「いつも読んでいる」と回答した生徒はいなかった。

のむ時間を守ることについては、男女共に群間に有意な差があった（男子； $\chi^2=31.013$ ,  $df=8$ ,  $p<.001$ , 女子； $\chi^2=19.715$ ,  $df=8$ ,  $p=.011$ ）。男女いずれにおいても「大切だと思う」群においては「守っている」と回答した者の割合が最も高かったのに対して、「あまり大切だと思わない」群と「よくわからない」群においては「守っている」と回答した者はいなかった。

のむ量を守ることについては、男子では「よくわからない」群は0名であったが、男女いずれにおいても群間において有意な差が認められた（男子； $\chi^2=8.684$ ,  $df=3$ ,  $p=.034$ , 女子； $\chi^2=44.218$ ,  $df=8$ ,  $p<.001$ ）。

#### IV. 考察

本研究の主な目的は、中学生の医薬品使用に関わる行動や態度の実態について予備的に検討し、中・高校生を対象とした大規模調査に向けて必要な基礎情報を得ることであった。

##### 1. 医薬品使用に関する実態

本研究の結果によれば、男子 93.2%、女子 94.2%が過去1年間に、男子 46.6%、女子 48.1%が過去1か月間に、何らかの症状で医薬品を使用していた。また、症状別にみると、過去1年間および過去1か月のいずれにおいても、男女共に「かぜ」、「腹痛・お腹の具合が悪い」、「頭痛」の際に服薬している者が多かった。

過去1年間に服用した医薬品の種類を調べた、緒方の熊本県内の高校生を対象とした調査<sup>9)</sup>や和田らの全国の15歳以上の住民を対象とした調査<sup>10)</sup>では、のみ薬の中では、かぜ薬や胃腸薬、鎮痛薬の使用が多かった。本研究の質問形式はそれらの研究と同様ではないため結果について厳密な比較はできないものの、本研究の各症状における医薬品使用率に関する結果は、緒方や和田らの調査結果と類似していた。

本研究では、保護者や学校の先生に相談しないで、自分で医薬品をのんだ経験がある者の割合は男子 35.6%、女子 42.3%だった。

我が国においては、同様の質問をしている先行研究がなかったため、本研究で得られた結果を他の研究と比較することはできなかった。

欧米の研究によると、思春期には自己判断で医薬品を使用し始め、さらに発達段階が上がるに従って自己管理を行う者の割合は高くなる<sup>11,12)</sup>。しかし、多くの青少年が自己判断で医薬品を使用しているにもかかわらず、そういった青少年の中には医薬品に関する知識が十分でない者や、誤った知識をもっている者もいることが問題とされている<sup>13,14)</sup>。さらに、Chambersら<sup>14)</sup>は、青少年が自己判断で医薬品を使用する際に、適切な知識や指導に基づいて自分で判断をすることと、根拠なく判断をすることは異なると述べており、知識不足等による不適切な医薬品使用が事故を招く可能性を指摘している。

本研究では、自分で医薬品を買った経験のある者は男子 5.1%、女子 5.8%、友人か

ら医薬品をもらった経験のある者は男子 13.8%、女子 26.9%、あげた経験のある者は男子 11.9%、女子 19.2%だった。

緒方の調査<sup>9)</sup>によれば、高校生の 26.7%が、前回の鎮痛薬使用時に鎮痛薬をドラッグストア等で購入しており、中学生を対象とした本研究の購入経験者率は緒方の結果に比べて低率だった。その理由として、高校生期は中学生期と比べて自己決定の機会が多くなり、行動範囲も広がることが考えられる。その結果、中学生期から高校生期にかけて、医薬品購入経験者が増加するものと考えられる。

本研究の結果によれば、医薬品を使用する際の相談相手として最も回答者率が高かったのは、「保護者」(男子 89.8%、女子 96.2%) だった。また、医薬品に関して信頼できる情報源として、男女共に 71.2%が「保護者」を挙げていた。

欧米の先行研究<sup>11,15)</sup>によると、多くの場合、青少年の最も身近な医薬品に関する情報源は保護者であり、本研究の結果はそれらの結果と一致していた。

多くの中学生が、医薬品を使用する際に保護者に相談し、医薬品に関して信頼できる情報源として保護者を挙げていた本研究の結果は、我が国の青少年の医薬品使用行動には、保護者の行動や態度、知識が大きな影響を及ぼしている可能性を示唆している。しかし、保護者の知識や行動が必ずしも適切であるとは限らないという指摘がある<sup>16)</sup>。したがって、青少年の医薬品使用に関わる問題に焦点を当てて検討する場合であっても、保護者の医薬品使用に関する行動や態度、知識についても併せて検討する必要があると考えられる。

なお、多くの質問項目において男女間に差がみられたものの、統計的有意差が認められたものは少なかった。その理由としては、標本数が少なかったことが考えられる。

## 2. 医薬品使用行動とその関連要因との関係

本研究の結果によれば、医薬品を使用する際の注意事項に関する行動と態度との間には有意な関連が認められ、注意事項を守ることについて、大切だと思っている群はそうでない群と比べて、各注意事項を守っている者の割合が高かった。しかし、医薬品を使用する際の3つの注意事項の内、特に説明書を読むこととのむ時間を守ることに関しては、「大切だと思う」と回答した者が男女共に8割近くいたにもかかわらず、実際に説明書を読んでいると回答した者や、のむ時間を守っていると回答した者は男女ともに2～4割と少なかった。

これらの結果から、行動と態度の間には関連がある一方で、注意事項を守るとは大切だと思っているにもかかわらず、実際には守っていない者が多いことが分かる。好ましい態度をもっているにもかかわらず、そういった好ましい行動を実際にはとらない理由として、好ましい行動を実践することを妨げる要因が存在する可能性が考えられる。



## V. 本研究の限界と今後の予定

本研究はパイロット調査であり、標本数が少なかった。そのため、より詳細な要因分析を行うことができなかった。さらに、標本の代表性の問題から、本研究の結果を一般化するには慎重にならなければならないと考える。

今後は、本パイロット調査の結果に基づき調査票を修正し、中・高校生を対象とした大規模調査を実施することによって、本研究で得られた知見の妥当性を検証するとともに、医薬品使用行動の関連要因についてより詳細に検討していきたい。

## VI. 調査研究発表

- ・ 2010 年第 57 回日本学校保健学会「中学生の医薬品の使用実態に関する研究」において口頭発表を行った。
- ・ 2011 年第 58 回近畿学校保健学会「中学生の医薬品使用行動の実態とその関連要因—予備的調査の結果より—」において口頭発表を行う予定である。
- ・ 学校保健研究に投稿する予定である。

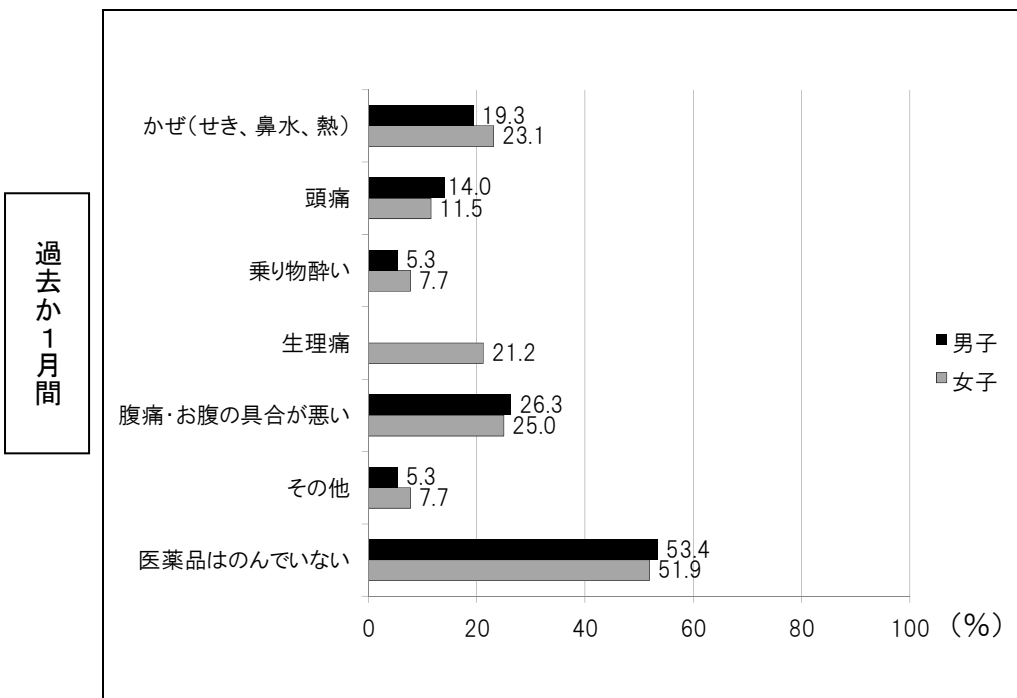
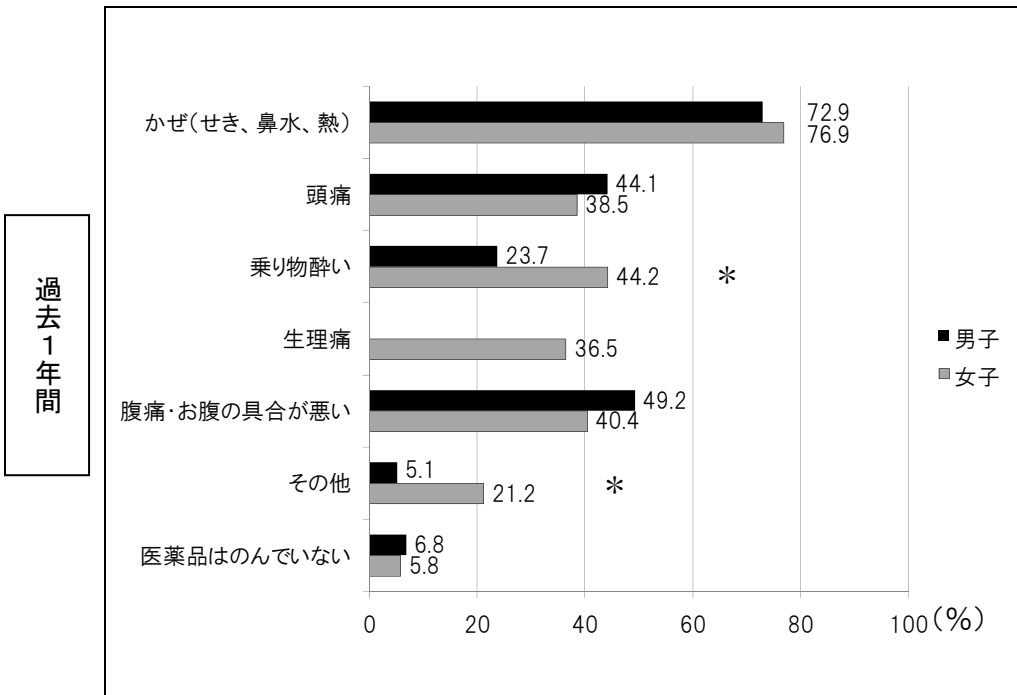
## VII. 引用・参考文献

- 1) 厚生労働省：一般用医薬品販売制度の改正について。 Available at <http://www.mhlw.go.jp/seisaku/2009/06/02.html>. Accessed at January 14, 2011
- 2) WHO：Guidelines for regulatory assessment of medical products for use in self-medication, 2000
- 3) 文部科学省：中学校学習指導要領解説—保健体育編。東山書房，京都，2008
- 4) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説—保健体育編。東山書房，京都，2009
- 5) 現代保健体育改訂版。大修館書店，東京，2010
- 6) 高等学校改訂版保健体育。第一学習社，広島，2010
- 7) (財)日本学校保健会：薬の正しい使い方—中学生用。 Available at [http://www.gakkohoken.jp/book/pdf/20medicine\\_c.pdf](http://www.gakkohoken.jp/book/pdf/20medicine_c.pdf). Accessed at January 14, 2011
- 8) (財)日本学校保健会：医薬品と健康—高校生用。 Available at [http://www.hokenkai.or.jp/iyakuhin/21medicine\\_d.pdf](http://www.hokenkai.or.jp/iyakuhin/21medicine_d.pdf). Accessed at January 14, 2011
- 5) 河野有，小林英夫，小田原昭男ほか：小中学生の医薬品や健康に関する知識の実態と「医薬品に関する教育」の効果に関するアンケート調査結果について。第 57 回日本学校保健学会講演集：193，2010
- 3) 文部科学省：中学校学習指導要領解説—保健体育編。東山書房，京都，2008
- 4) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説—保健体育編。東山書房，京都，2009
- 5) 現代保健体育改訂版。大修館書店，東京，2010
- 6) 高等学校改訂版保健体育。第一学習社，広島，2010

- 7) (財) 日本学校保健会 : 薬の正しい使い方—中学生用 . Available at [http://www.gakkohoken.jp/book/pdf/20medicine\\_c.pdf](http://www.gakkohoken.jp/book/pdf/20medicine_c.pdf). Accessed at January 14, 2011
- 8) (財) 日本学校保健会 : 医薬品と健康—高校生用 . Available at [http://www.hokenkai.or.jp/iyakuhin/21medicine\\_d.pdf](http://www.hokenkai.or.jp/iyakuhin/21medicine_d.pdf). Accessed at January 14, 2011
- 9) 緒方郁子 : 高校生におけるセルフメディケーションに対する認識度に関する調査 . 平成 19 年度一般用医薬品セルフメディケーション振興財団調査研究・啓発事業等報告書, 2008
- 10) 和田清, 嶋根卓也, 立森久照 : 薬物使用に関する全国住民調査 (2009). 平成 21 年度厚生労働科学研究費補助金分担研究報告書
- 11) Chambers CT, Reid GJ, McGrath PJ et al. : Self-administration of over the counter medication for pain among adolescents. Archives of Pediatrics & Adolescent Medicine 151 : 449-455, 1997
- 12) Sloand ED, Vessey JA : Self-medication with common household medicines by young adolescents. Comprehensive Pediatric Nursing 24 : 57-67, 2001
- 13) Huott MA, Storrow AB : A survey of adolescents' knowledge regarding toxicity of over-the-counter medications. Academic Emergency Medicine 4 : 214-217
- 14) Gilbertson RJ, Harris E, Pandey SK et al. : Paracetamol use, availability, and knowledge of toxicity among British and American adolescents. Archives of Disease in Childhood 75 : 194-198, 1996
- 15) Hameen-Anttila K, Bush PJ : Healthy children's perceptions of medicines : A review. Research in Social and Administrative Pharmacy 4 : 98-114, 2008
- 16) Allotey P, Reidpath DD, Elisha D : "Social medication" and the control of children. A qualitative study of over-the-counter medication among Australian children : Pediatrics 114 : 378-383, 2004

## VIII. 謝辞

本研究を進めるにあたり、ご支援賜りました公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団に心よりお礼申し上げます。



\* :  $p < .05$  (男女間比較,  $\chi^2$ 検定)

図1 服薬経験者率

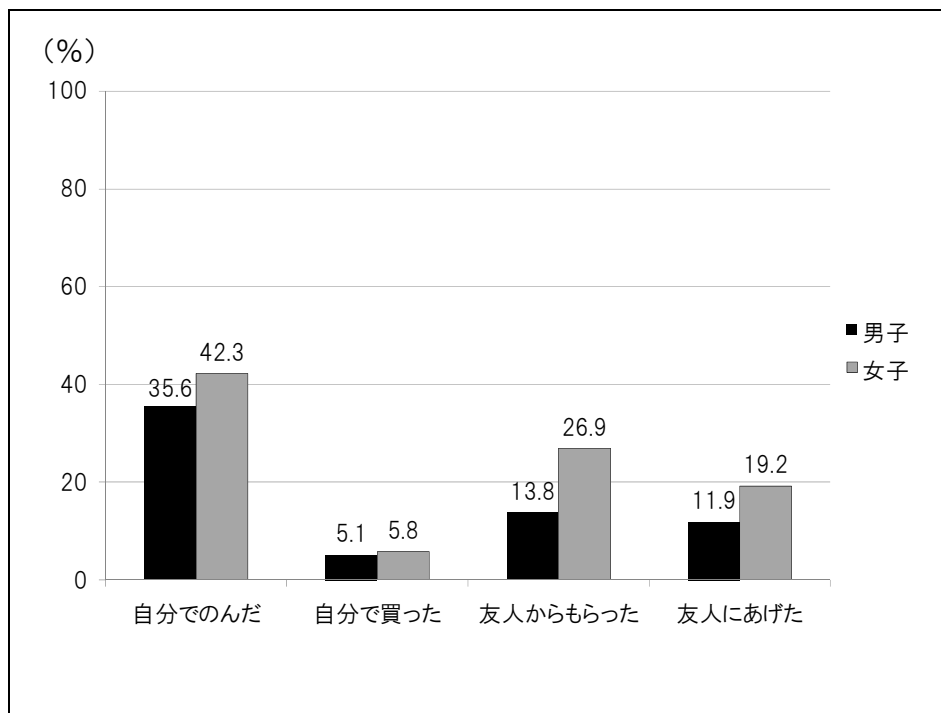
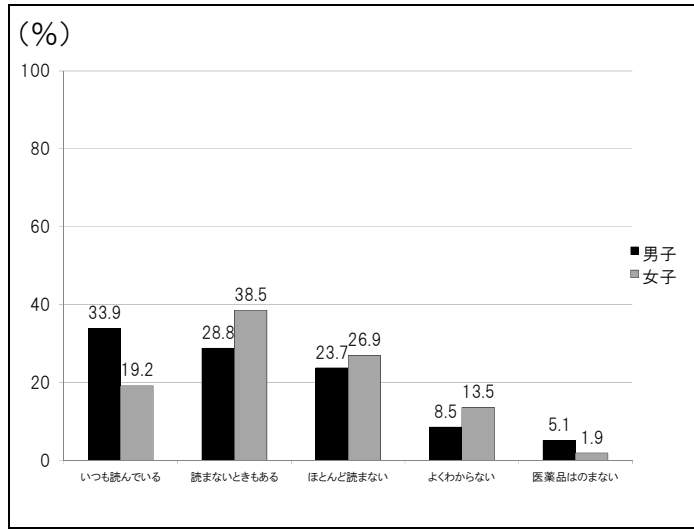
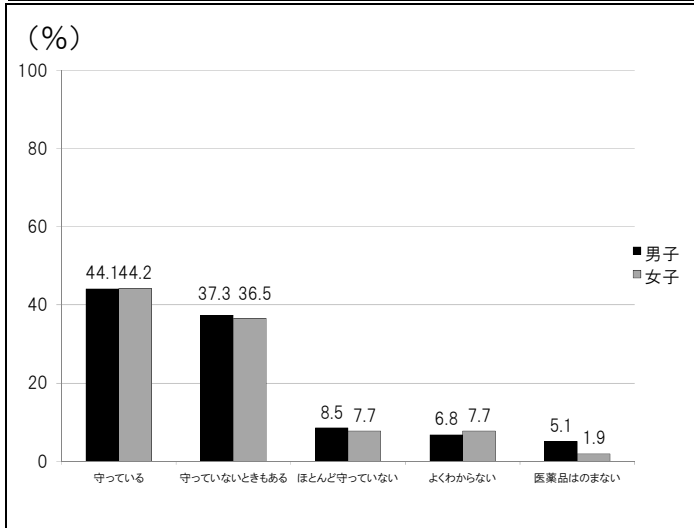


図2 自己判断での服薬や医薬品購入経験者率，友人とのシェアの経験者率

説明書を読むこと



のむ時間を守ること



のむ量を守ること

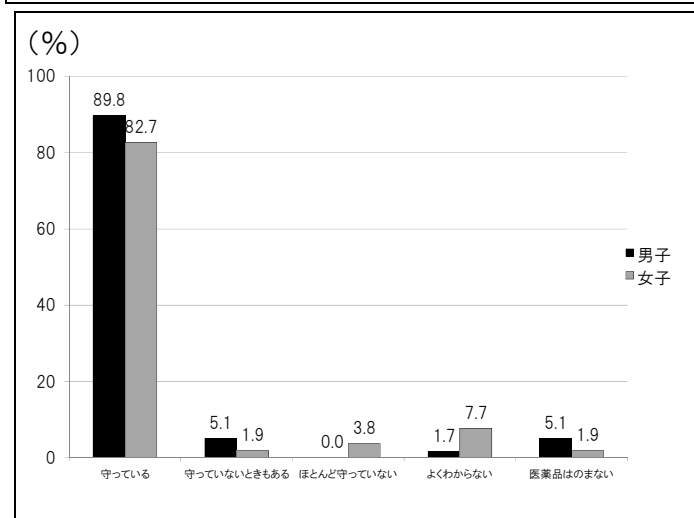


図3 医薬品を使用する際の注意事項に関する行動

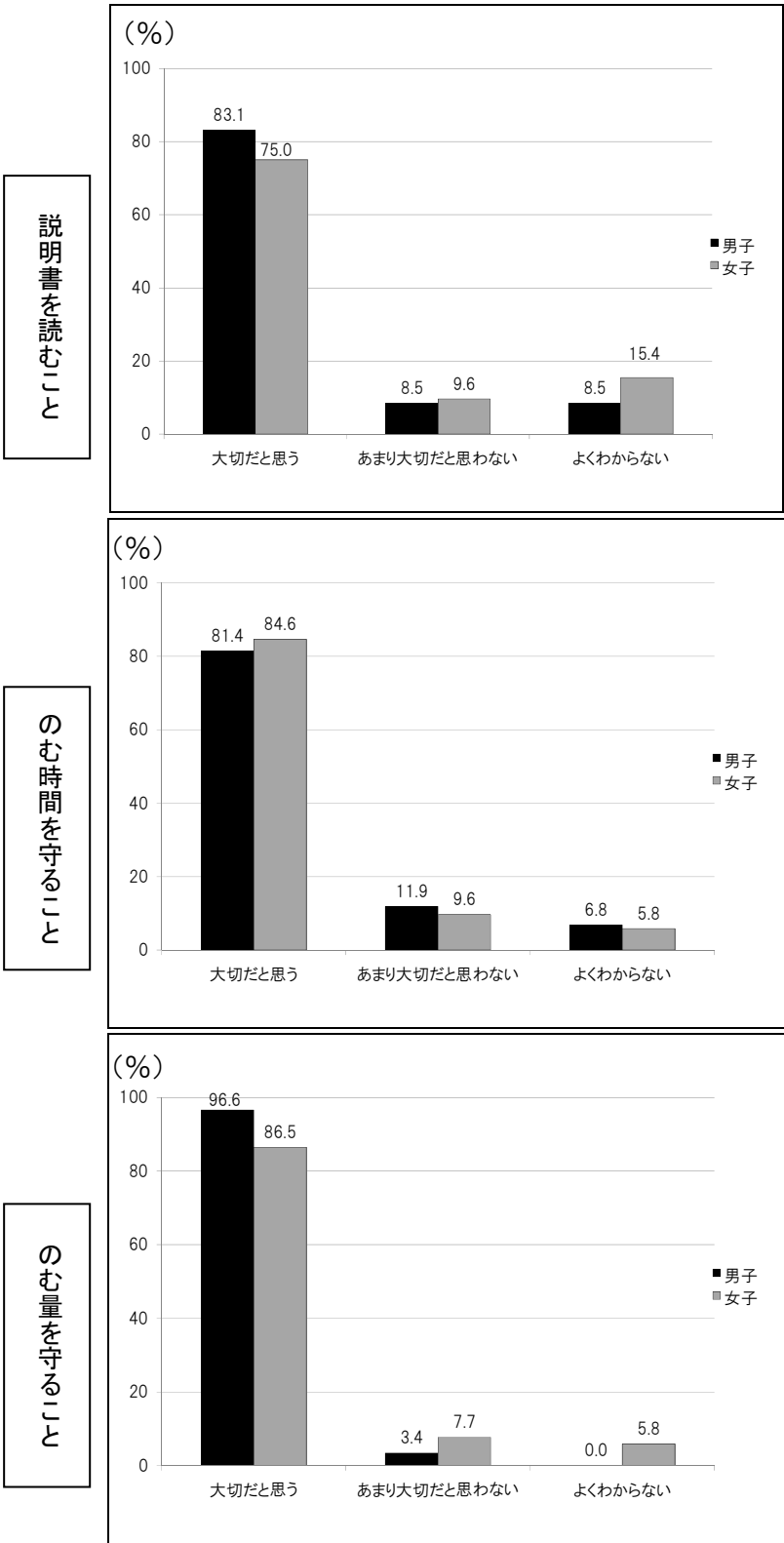


図4 医薬品を使用する際の注意事項に関する態度

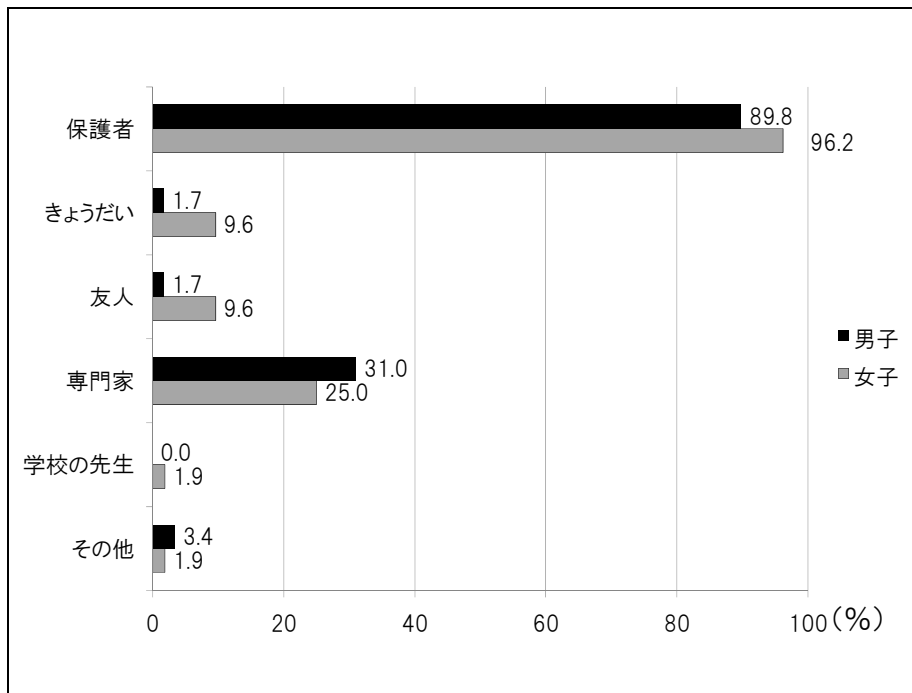


図5 医薬品をのむときの相談相手

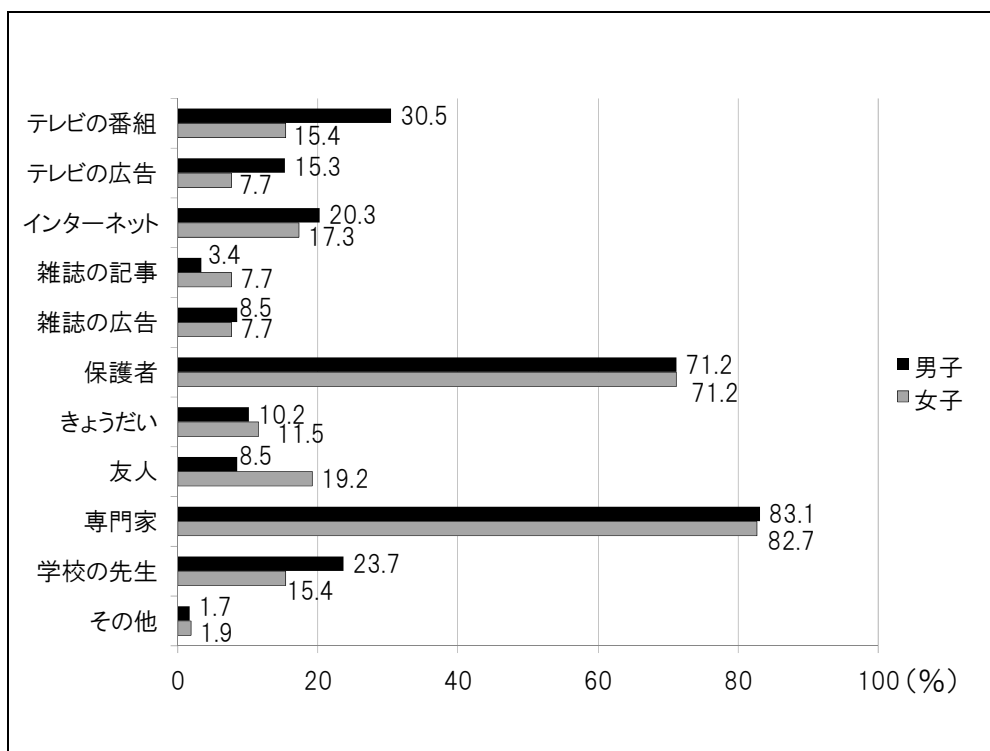
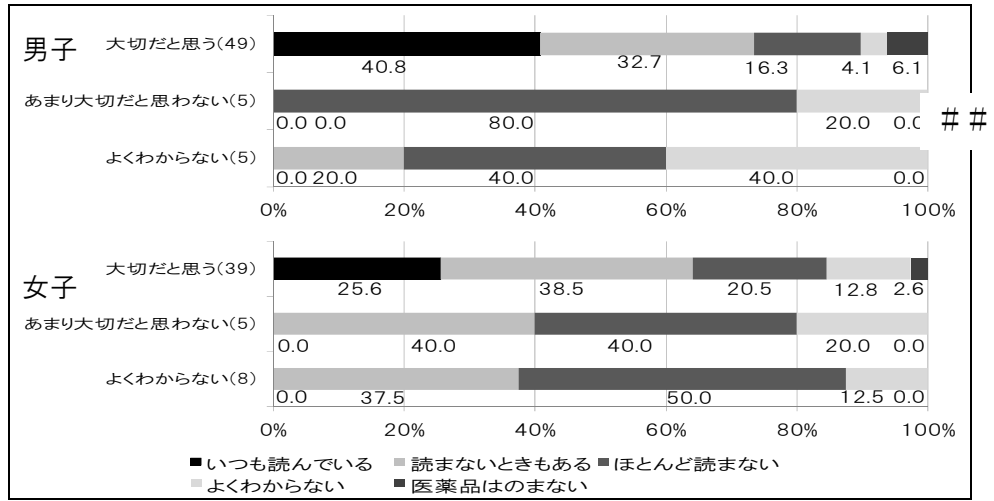
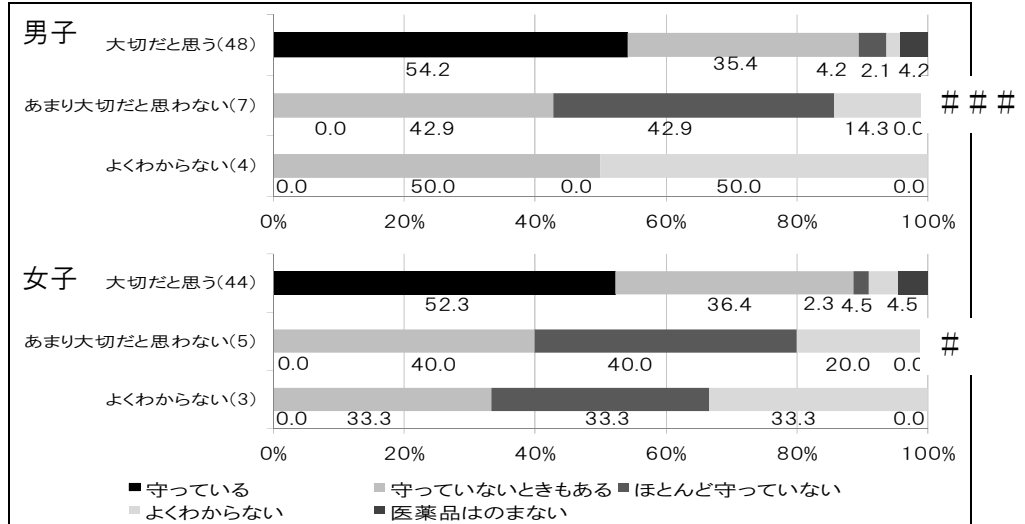


図6 医薬品に関して信頼できる情報源

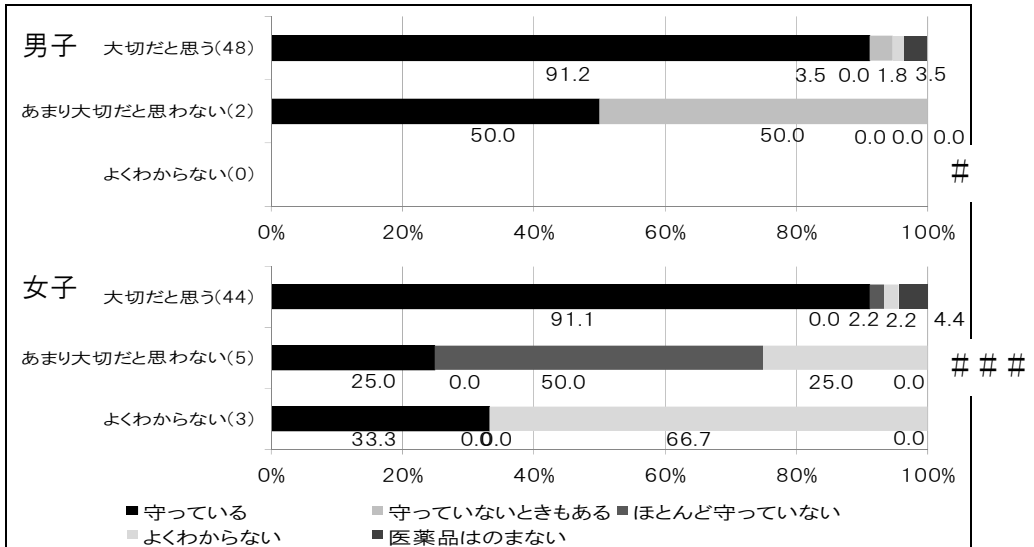
説明書を読むこと



のむ時間を守ること



のむ量を守ること



### : p < .001, ## : p < .01, # : p < .05 (群間比較,  $\chi^2$ 検定)

図7 医薬品を使用する際の注意事項に関する態度と行動の関係



**表1 医薬品使用に関する主な質問項目（抜粋）**

<p>【医薬品使用に関する行動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服薬経験（過去1年間・過去1か月間）</li> <li>・自己判断での服薬，医薬品購入，友人との医薬品のシェア</li> </ul> <p>【医薬品を使用する際の注意事項に関する行動や態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品を使用する際の注意事項に関する行動 （説明書を読むこと，のむ時間を守ること，のむ量を守ること）</li> <li>・医薬品を使用する際の注意事項に関する態度 （説明書を読むこと，のむ時間を守ること，のむ量を守ること）</li> </ul> <p>【健康問題に関する相談相手】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品をのむときの相談相手</li> <li>・保護者，きょうだい，友人への相談頻度 （医薬品をのむとき，からだの具合がわるいとき）</li> </ul> <p>【医薬品に関して信頼できる情報源】</p> <p>【属性】 学年， 性</p>
--

**表2 保護者，きょうだい，友人への相談頻度（％）**

**医薬品をのむとき**

		いつも 相談する	ときどき 相談する	あまり 相談しない	全く 相談しない
保護者	男子	57.6	32.2	10.2	0.0
	女子	67.3	21.2	9.6	1.9
きょうだい	男子	1.7	8.5	28.8	61.0
	女子	2.0	12.0	18.0	68.0
友人	男子	0.0	5.1	23.7	71.2
	女子	1.9	11.5	19.2	67.3

**からだの具合が悪いとき**

		いつも 相談する	ときどき 相談する	あまり 相談しない	全く 相談しない
保護者	男子	50.8	33.9	13.6	1.7
	女子	63.5	21.2	13.5	1.9
きょうだい	男子	5.1	10.2	30.5	54.2
	女子	8.0	8.0	32.0	52.0
友人	男子	3.4	28.8	35.6	32.2
	女子	15.4	28.8	30.8	25.0